

平成26年度後期学校評価

児童 A=そう思う B=大体そう思う C=あまりそう思わない D=そう思わない

教職員 保護者 A=よく出来ている B=大体出来ている C=あまり出来ていない D=出来ていない

後期の「学校評価」実施の結果をお知らせします。これからも子どもたちにより良い教育活動を行うことができるよう、いただいたご意見を生かしながら、学校運営の改善と発展を目指し、励んでいきたいと思います。

(母数は1・2年399 3~6年781 保護者1013となっています。)

	評価内容（児童）	1・2年児童		3~6年児童		評価内容（教職員）	教職員	
		A+B	C+D	A+B	C+D		A+B	C+D
1	学習のめあてが分かり、学習課題を立てることができる。	93	7	88	12	学習のめあてが分かるように指導している。	95	5
2	司会をして学習を進めることができる。	91	9	84	16	子どもが司会をして、学習を進めることができるように指導している。	77	23
3	相手の考え方や意見を聞き、質問したり意見を述べたりすることができる。	86	14	82	18	相手の考え方や意見を聞き、質問したり意見を述べたりしてグループで話し合うことができるよう指導している。	83	17
4	目的に合わせて、自分のおもいや考え方を書きまとめることができる。	94	6	90	10	学習過程を大切にして、思考表現力を高めるような授業を進めている。	84	16
5	先生は、分かりやすく最後まで教えてくれる。	95	5	93	7	分からないところは分かりやすく最後まで教えている。	86	14
6	先生は、提出したノート等に○をしたり、間違いを直したり、コメントを書いたりするなど、ていねいに見てくれる。	97	3	95	5	子どもたちのノートや作品、ワークシート等には、○をつけたりコメントを入れたりするなど、ていねいに見ている。	75	25
7	生活科（低学年）・総合コミュニティ（かがやき）（3~6年）の学習は好きだと思っている。	91	9	84	16	生活科や総合コミュニティ（かがやき）の学習で、学習素材のよさを生かして、意欲的に学習できるよう指導を工夫している。	82	18
8	学校を好きだと思っている。	92	8	88	12	子どもたちが楽しく学校に来ることができるよう工夫している。	92	8
9	ごしょみみなみ（ごあいさつ・しっかり片づけ・みんななかよく・名札をつける・右側を歩く）のやくそくを守っている。	92	8	88	12	ごしょみみなみのやくそくを意識して指導し、実現できている。	86	14
10	自分に自信があり、自分を好きだと思っている。	83	17	79	21	自分に対する肯定感をもつなど、自尊感情を育てる指導をしている。	89	11
11	学校の先生は、自分のことをよく分かっている。	84	16	87	13	子どもの様子をよく見たり、話しかけたりして子どもを理解する努力をしている。	92	8
12	自分は、家族や先生・友だちに大切にされている。	94	6	94	6	子どものことについて連絡を密にするなど、保護者と連携して指導するようしている。	74	26
13	交通ルールを守っている。	97	3	94	6	交通安全指導に取り組んでいる。	89	11

評価内容（保護者）

学校に対して		A+B	C+D	学校に対して		A+B	C+D
1	考えたことを表現するような授業を進めている。	97	3	7	学校の教職員は、質問したり相談したりしやすい。	92	8
2	分かりやすい授業を目指して学習の進め方を工夫している。	96	4	保護者として		A+B	C+D
3	子どものノートや作品、ワークシート等には、○をつけたりコメントを入れたりするなど、ていねいに見ている。	94	6	1	子どもの生活のリズムを大切にし、早寝・早起きができるようしている。	84	16
4	子どもの実態や課題に応じて、一人一人を大事にした学級経営を行っている。	87	13	2	子どもから学校や友達の話をよく聞くように努力している。	95	5
5	子どものことについて連絡を密にするなど、保護者と連携して指導するようしている。	88	12	3	時間を決めて学習したり集中して学習に向かうことができるようするなど子どもに学習の習慣がつくようになっている。	83	17
6	学校は、学校だより・ホームページ等で学校の様子を積極的に伝えている。	91	9	4	参観・懇談会等、学校の行事には、できるだけ参加するようしている。	83	17
				5	子どもが交通ルールを守るようにしている。	97	3

☆改善された点 ★今後も改善が必要な点 ○今後に向けて

児童

☆ごしょみみなみのやくそくを守っている（低学年）
前期と比べて2%だがA+Bが増えている。学校生活にも慣れ、たくさんの友だちと過ごすための大切な約束が身についてきたと考えられる。

★相手の意見や考え方を聞き、質問したり意見を述べたりすることができる（高学年）
前期と比べて8%，A+Bが増えている。二人組やグループ、全体交流など、話し合いを学習に取り入れた授業の中で、高学年の子どもたちが少しずつ質問や意見を述べることができるようになったと捉えていることは嬉しいことである。

★自分に自信があり、自分を好きだと思っている
前期と比べて少し落ち込んでいる(2%)程度であるが、他の項目よりもA+Bの割合が70%~83%になっている。

○これからも、考えたことを表現する力などを高めるための授業や指導の改善を続けていくことと共に、子どものよさやできたことをしっかりと認め、自信につながる工夫も大切にしていきたい。

保護者

☆家庭学習の習慣がつくようになっている

前期の保護者アンケートと比べると、A+Bが5%増えている。集中して学習する習慣の大切さを考えて、それぞれの家庭生活に合わせて取り組んでいただいたのではないかと考えられる。

★参観・懇談会や学校行事にはできるだけ参加している

ほかの項目のA+Bの割合が増えているのに対して、ほぼ前期と同じである。保護者が参加しやすい方法や日程などにも改善が必要であると考えられる。

○ボランティアなどについても、お一人お一人ができるところで少しずつ協力していただけるとありがたく、また大きな力になると思われる。

保護者の方々のお子たちへの思いを感じながら、これからも担任一人ではなく、学年や学校体制でよりよい指導等ができるようにしていきたい。

教職員

☆子どもが司会をして学習を進めることができるよう指導

前期と比べてA+Bが10%増えている。司会力を付けることについて、その良さを話し合い、よりよい指導を求めて教職員が研究を進めてきたことが、授業の中で生かされてきたと感じている教職員が増えたと考えられる。

★保護者と連携して指導するようしている
保護者と連絡を密にとれないと感じている教職員が前期と比べると10%ほど増えた。

○教職員と保護者が共に協力して子どもを育てるために、信頼関係を深めていくことが大切だと考えている。参観日や学級懇談会などの機会を生かすなど、連携できるための方法を今後も工夫していきたい。保護者の方々にも、参観だけでなく懇談会などにも多数参加してもらうようにお願いしたい。